

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西川副小学校

4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 - 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 - 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

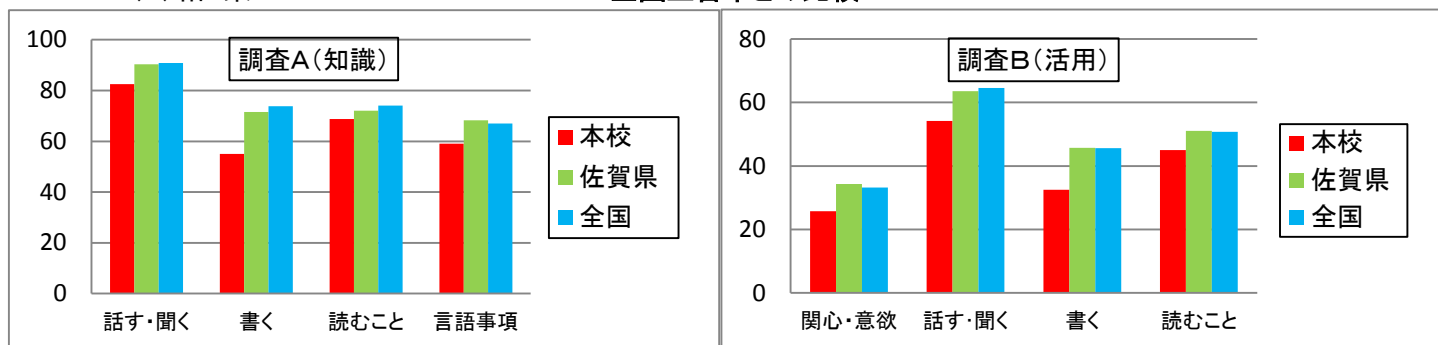
全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語

(1) 結 果

全国正答率との比較



主として「知識」を問うA問題で各領域での平均が全国平均を下回った。活用を問うB問題でも各領域での平均が全国平均を下回った。分布の割合をB問題の県・全国平均と比べて見てみると、中位よりやや低い部分での割合がやや高くなっている。また、記述式の問題の無解答率が高いことも要因のひとつであると思われる。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて話す問題では正答率が高かった。一方、質問の意図や司会の役割を捉えたり、自分の意見と比べたりするなど聞くことに関する問題では全国平均と比べて正答率が低かった。話すこと・聞くことが一体化した授業を仕組んだり聞くことの意義を考えさせたりする場面が必要である。

書く

・文章全体の効果を考えて構成を工夫することや比較して書くことの良さなど、よりよく表現するための意義や効果については理解している。目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書く問題や目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題など記述する問題の正答率が低かった。目的や条件に合わせて書くことや要約することを繰り返し継続して行っていく必要がある。

読む

・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題では、県・全国平均ともに上回った。目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題では、無解答率が20%であった。

言語事項

・慣用句の意味や適切に敬語を使う問題は、全国平均と同等だった。スキルタイムや宿題の効果が表れていると思われる。辞書活用に力を入れるなど、学んだ言葉を使える語彙力をつける必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 朝の読書、読み語りに加え、学年ごとに選定した「おすすめの本」を活用し、学年に応じた読書と呼びかけています。本に親しむとともに、読解力をつけて学習に臨めるようにします。
- 主述の関係を意識する。文章の構成を押さえ、書き方のポイントを確認する。要約の練習をすることで、書く力をつけていきます。
- 話し合い活動を位置づけ、互いの意見を交流する場を設けています。自他の考えを大切にし、伝え合うことで考えを広げ深めようとする子どもの育成を目指します。

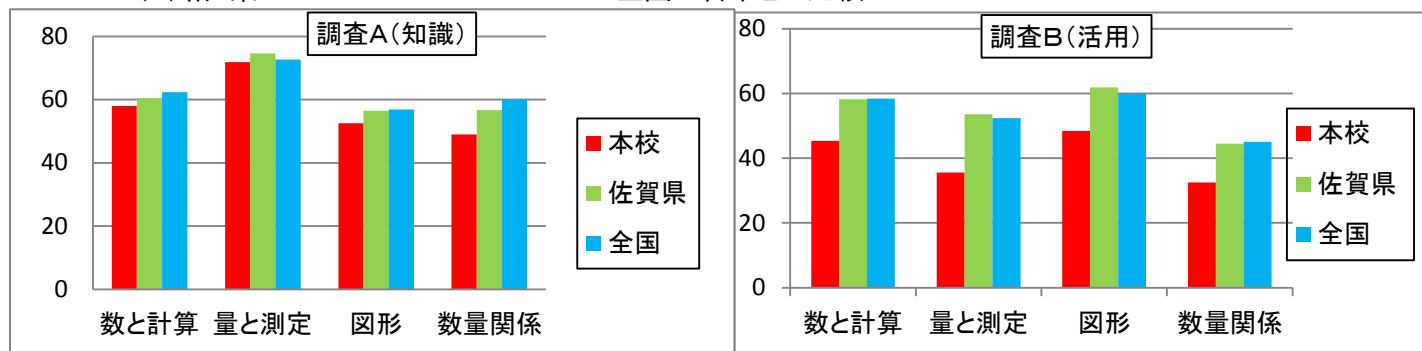
【ご家庭では】

- 毎日の音読が学習の支えになります。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。
- 親子読書をおすすめします。本を介してお子さんと会話を楽しんでください。様々な本に触れることで、多くの表現や用語を習得し、語彙力を高め、知識の幅を広げることができます。また、親子で共感することを通して主体的な学びを支える豊かな心が育っていきます。

2 算数

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問うA問題の「量と測定」では全国平均とほぼ同等で、他の領域は下回っている。活用力を問うB問題では、どれも全国平均を下回っている。理由や方法を記述する問題の正答率は27%で、無解答が多く見られる問題もあった。自分の考えを筋道立てて考え、表現することを苦手としていることが考えられる。

(2) 成果と課題

数と計算

・A問題の1に当たる大きさを求める問題や数の大きさを比べる問題は県・全国平均を上回った。B問題の示された数量を関連付け根拠を明確にして記述する問題では、正答率が低く、無解答率が高かった。授業の中で、基になる数と比べる数を比較して理由を記述する練習が必要である。

量と測定

・A問題の正答率は全国平均と同等であった。単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を問う問題では県・全国平均を上回っている。B問題の時間を求める問題では、正答率が低かった。示された考え方を解釈すること、ほかの数値の場合を表に整理することなど、条件に合わせて考える力をつけていく必要がある。

図形

・角の大きさの和を証明する問題では、取り上げた角の大きさは書いているが、角の大きさと図形の種類を関連付けたり、筋道を立てたりして記述する部分に難しさが見られた。また、円周率の意味や直径の長さや弧の長さの関係について復習が必要である。

数量関係

・グラフの問題では複数のグラフから変化の特徴を読み取ることやグラフと情報を関連付けて考えることに困難が見られた。複数のグラフを組み合わせたり、関係付けて考えたりするなど、目的に応じて表やグラフを活用する活動を重視していく。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 朝のチャレンジタイムで、基礎・基本の四則計算を中心に学習の定着を図ります。
- 授業では、「めあて」と「まとめ」「ふりかえり」を提示し、主体的学習に取り組めるように支援していきます。また、自力解決の時間や話し合い活動の充実を図り、みんなで理解を深める実践をしていきます。
- 日々の学習指導（T・T少人数指導、宿題の工夫、テスト等）の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。また、家庭との連携・協力を図っていきます。

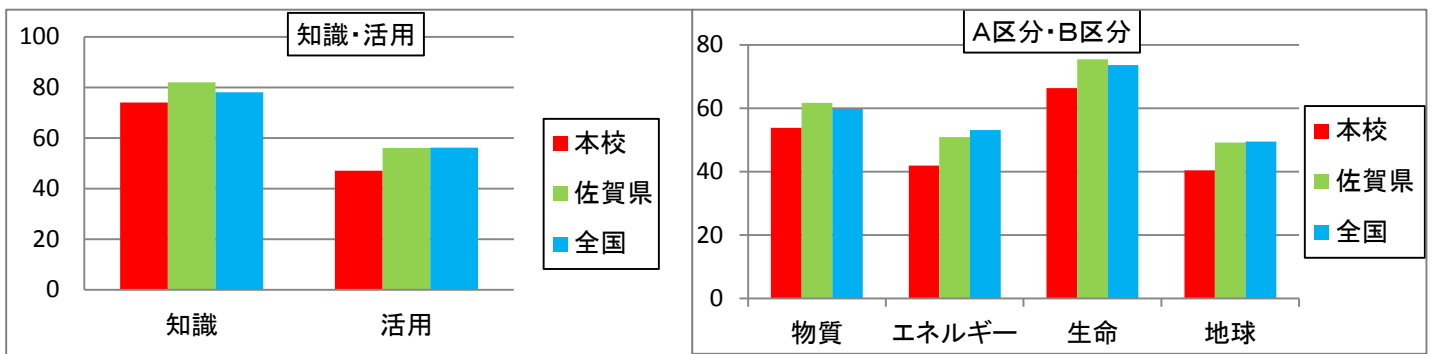
【ご家庭では】

- ノートや宿題、テスト等に目を通し、理解の度合いや学習の仕方などを把握してください。また、励ましや称賛の言葉をかけることで、児童の意欲や自信につながります。
- 身近にある単位に目を向けさせたり、買い物での割引額を一緒に計算したりするなど算数の学習を生活の中でいかすような声かけや体験をぜひさせてください。

3 理科

(1) 結果

全国正答率との比較



基礎的な知識を問う問題も活用力を問う問題も全国平均を下回っている。A区分(物質・エネルギー)、B区分(生命・地球)ともに全国平均を下回っている。観点別で見ると、自然事象についての知識・理解の問題では全国平均と同等であった。科学的な思考・表現の記述で答える問題では、無解答率が低くなっている。

(2) 成果と課題

物質

・食塩を水に溶かしたときの全体の重さを考える問題は全国平均を上回っていた。実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、内容を記述する問題では、正答率が低かった。実験結果をしっかりと吟味し、結果とまとめのつながりを確認しながら考えさせることが必要である。

エネルギー

・風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ問題は、県・全国ともに平均を上回っていました。電流の流し方について、予想が確かめられる場合に得られる結果を見通して実験を構想する問題は、正答率が低かった。学習のつながりを意識すること、見通しを立て、実験を組み立てていく学習過程を大切にすることを定着させていく必要がある。

生命

・腕を曲げることのできる骨と骨のつながり目を表す言葉を書く問題では、全国平均を上回っていた。科学的な言葉や概念の理解が進んでいる。人の腕が曲がる仕組みについて説明する問題の正答率が低かった。骨や筋肉のつくりと働きを関係付けながら、動かしたり観察したりして調べる活動を重視していく必要がある。

地球

・流れてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ問題は、全国平均を上回っていました。堆積作用のもつ言葉の意味を科学的に捉え理解している。実験結果を基に分析して考察すること、その内容を分かりやすく表現する力をつける必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 問題解決型の学習過程の定着を図り、主体的に学び、科学的に考えることができるようにします。また、学習で学んだことと実生活との関連を図ることを目指します。
- 授業では、「変える条件」と「変えない条件」に分けるなど条件を整理したり、見出した問題から立てた仮説を基にしたりして実験を計画できるようにします。また、実験結果から傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。

【ご家庭では】

- 子どもが理科に興味・関心を持ったときに、それにつきあったり、話を聞いたりする大人が近くにいることは、理科が好きな子に育つことにつながります。ぜひお子さんといっしょに考えたり、調べたりしてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
毎日同じくらいの時刻に起きる。	80.0	88.8
毎日同じくらいの時刻に寝る。	75.0	77.0
朝食を毎日食べていますか。	97.5	94.5
学校の決まりを守っている。	80.0	89.5
平日読書を30分以上している。	37.5	41.1
平日読書は全くしない～10分未満。	37.5	33.6

起床・就寝・朝食については全国平均とほぼ同じである。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムについて話し合い、不規則にならないように気をつけさせたい。

読書については、30分以上読書をしている割合いと、10分未満の割合が同じである。読書の習慣が身についていない児童が多いことが気になる。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 %	全国平均 %
平日2時間以上勉強している。	27.5	29.3
平日1～2時間勉強している。	20.0	36.9
平日0～1時間勉強している。	47.5	31.2
家で、学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	95.0	97.1
家で、授業の予習・復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	40.0	62.6
家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している。(どちらかといえばしているも含む)	55.0	69.9

学習時間は、27%の児童が2時間以上と答えているものの、まだ1時間未満の児童が47%弱おり、かなり個人差が見られる。

学校の宿題についてはきちんとしているが、予習・復習については個々の意識に差があり、これが学習時間の差に直結していると思われる。家庭学習の質・量・やり方をともに上げていく必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示する等して定着を図ります。分からない言葉があると辞書で調べるようにすすめていきます。
- 読書ボランティアによる読み聞かせや読書タイムを活用し本に親しませていきます。また、学年に応じた「おすすめの本」を紹介しています。
- 家庭学習がんばろう週間の取り組みなど、家庭学習の充実を図っていきます。目標を持って計画的に学習をすすめる児童が増えています。

【ご家庭では】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に規則正しい生活習慣の定着をお願いします。テレビやゲームなどの使用時間を決めるなど、家庭でのルール作りが学習習慣の定着にもつながります。
- 親子で読書、親子で調理等、親子での関わりを増やしてください。共通体験を通じて得られる保護者の言葉は子ども達の胸に響き、これからの成長を後押ししてくれます。
- 低・中・高学年ごとに家庭学習の時間や内容を示した「家庭学習の手引き」をご確認いただき、家庭学習の充実を図っていただきたいと思います。